

	事例1		事例2		事例3		事例4		
基本情報	大井 君子(おおい きみこ)		村山 幸枝		佐々木 文雄		石井 幸子		
	75歳・女性		67歳・女性		87歳・男性		81歳・女性		
	パーキンソン病		脳梗塞後遺症		認知症(レビー小体)		認知症(アルツハイマー)		
	【生活歴】 5人きょうだいの4番目として生まれる。学校を卒業後、食品会社の事務員として働いており、職場で現在の夫と出会い、23歳で結婚。結婚後は退職し、専業主婦となる。25歳の時に長女を出産、27歳のときに次女を出産。料理が好きで、子どもが小さい頃は、よく一緒にお菓子を作っていた。また、編み物が趣味で、セーターなどを夫や子どもに編んだり、自作のお菓子を用意して、近所の人とお茶をしながら編み物を教えることが楽しかった。		老健	【生活歴】 23歳で結婚。夫は、自営業で経済力があつた。豪邸に住み、義母の世話をしながら子育てをしてきた専業主婦。義母と夫を看取ってから、自由気まま(ゴルフ・外食・旅行・買い物など)に生活をしてきた。脳梗塞で倒れ、左半身麻痺の状態となった。		【生活歴】 農家の6人兄弟の5男として生まれ、中学校卒業後地元の製材工場に勤め、20歳の頃自動車製造販売会社へ転職。海外勤務も経験し定年まで務める。同僚の女性と結婚をし1男1女の4人家族で地方都市で暮らしていた。若いころの趣味はバイクや車、釣りであった。妻ともサイドカーでドライブに行っていた。長男は都市部に就職し、年に数回の面会。長女は結婚後は隣町に住んでおり、キーパーソンは長女である。		【生活歴】 結婚前より定年まで40年間、小学校教員を勤めながら3人の子育てを育て上げた。定年後は友人を自宅に招き食事を振舞ったり、好きな音楽を鑑賞し、歌や踊りを楽しむなど、夫婦で悠々自適の生活をしていた。しかし、夫が他界した76歳の頃、アルツハイマー型認知症と診断。介護サービスを利用し自宅で1人暮らしを続けていたが、徘徊等の症状が出始めたことにより、3年前特養に入所。長男の面会は1年に1回程度、長女は1週間に1回程度の面会がある。	
	要介護1		要介護4		要介護3		特養	要介護3	
夫、長女、次女		娘(海外在住)・息子		妻・長男・長女		夫(他界)、長男、長女、次男(他界)			
事例から考える		中央法規介護過程テキスト		事例から考える		中央法規介護過程テキスト			
介護過程・生活支援技術に応用できる					介護過程・認知症の理解・コミュニケーションに使える				
ケア場面	【移動】 杖歩行の介助場面。生活リハビリを行っている(安全な歩行動作の獲得)イメージ。歩幅を広く(床にテープを貼る)、リズムカルな歩行(1,2の声かけ)を意識するよう介助する。	【着脱】 自力で行う場面。ボタンを留める動作に時間がかかる、諦めて一番上は開けたままにしていしまう。	【移動】 歩行のリハビリテーションを受けており、積極的に歩行することを進められているが、転倒への不安が強く、いつも車いすを使用している。ただし、杖を使用しての歩行は可能。椅子から車いすに移乗して、車いす全介助で移動して、立位をとってリハビリを始める	【着脱】 職員が促さなければ、1日中寝巻で過ごす。空間無視により、感覚の誤差が生じ、上手く着れないことがある。	【移動】 移乗時は摺り立ちが可能、方向転換も声掛けにて行うことが可能 車いすは職員に押してもらっている	【着脱】 更衣は上衣はゆっくりであれば着脱できる。ベッド柵につかまり立ちして行う 持っている服を理解しており、自分で「あれを着る」と選ぶ	【移動】 食事が終わった後、席を立ち、自分の部屋に戻ろうとするが、見当識障害により場所がわからず、うろろろしている。本人はとて不安で外国に一人置き去りにされるような不安な気持ちでいる。	【着脱】 (居室にて)着衣失行のため、衣服の上から順番が異なる衣服を重ね着している。おしゃれが好きで本人は重ね着した服装が似合っていると思いい、笑顔でポーズを取り自分の姿にみとれている。	
	【整容】 毎朝洗顔後に化粧水をつける習慣がある。よく人が訪ねてくる家であったため、日頃から身だしなみを整える意識がある。	【食事】 うまく口に運べないことがある。便秘(腹部膨満感による不快感)のため食事はいらぬ言っていることがある。	【整容】 右手を使い、自分で行うことができる。 全部やっちゃうパターン??	【食事】 3食の食事は、配置と滑り止めを工夫すれば自力で完食できる。間食が多く、体重が増量。	【整容】 持っている服を理解しており、自分で「あれを着る」と選ぶ 外出の時には長女に電話し、ブランド物の衣類や靴を持ってきてもらう事もある タオルを渡すことで自力保清 口腔ケアは洗面台までは誘導、他自立 髭はしっかりとそりたい	【食事】 主食は全粥、副食は常菜。箸とスプーンを使用し自力で全量摂取	【整容】 おしゃれが好きで、鏡の前でくし髪をセットしながら、嬉しそうに微笑んでいる。でも、髪が整っていない...	【食事】 食事形態は普通食だが、義歯が合わず固いものが食べられない。主食は全量、副食は半分程度の摂取状況。本人は好き嫌いなく何でも食べることができていると思っている。	
	【趣味】 編み物(振戦がありうまく編めなくなってきた)。	【家事】 意欲的。うまく動かせないことがあり、少し自信を無くしている。	【趣味】 ゴルフ 美味しいものを食べに行く	【家事】 息子のために何か作りたいと思っている。	【趣味】 バイク、車、釣り、歌を歌うことも好き(北島三郎)	【家事】 他の利用者と一緒にタオル畳みを行っている時がある	【趣味】 テレビが好き(歌番組がやっている)と喜ぶ。歌うのも好き。小学校の先生をしていたから音楽は得意。	【家事】 掃除や洗濯物たたみ、調理の手伝いなど積極的に行おうとするが、手順がわからなくなっている。	
【余暇】 施設内の行事や体操には積極的に参加している。気をつけて参加しているところもある。	【経験】 専業主婦。	【余暇】 塗り絵・無心行う作業で現実逃避している	【経験】 専業主婦の鏡のような生活をして、義母と夫を自宅で看取ったことに自負がある。	【余暇】 リビングで他の利用者と録画した番組をみていることがある ベッド上で自ら片足上げを行っている	【経験】 会社のために身を粉にして働き続ける役職にも就き、職員教育を行い、部下たちにも慕われていた	【余暇】 テレビ見るのが好きで日中食堂でテレビを見ながら寛いでいる。そんな中、テレビに小さな男の子の映像が目に入り、しばらく見入っていたが、突然涙を流してしまう(次男を亡くしている経験から)。	【経験】 小学校の教員歴40年		
【性格】 周りに気をつかう、迷惑をかけたくないと遠慮してしまうところがある。	【価値観】 家族が大切。家族のために家事を積極的に行ってきた。人が喜ぶのを見るのが好き。	【性格】 温厚で優しい。気遣いができ、職員から信頼されている。心配性で気持ち沈むと依存傾向になる。会話をしていると、涙ぐむが泣くことが多い。	【価値観】 多様な価値観を受け入れることができる人物。息子が好き。金銭的な苦労をしたことはない。おしゃれが好きだったが、現在は、興味が無いような素振りをしている。	【性格】 仕事に関する話をした際に、大切な事として嘘をつかないことと話されている。昼食が少ないからと家族に梅干しを持ってきてもらい、それをみんなにも食べてほしい、だから買ってくるのは安いのでいい。高いのでは、もらう側が気が引けてしまふからと話していた。周りの盛り上げ役であった。	【価値観】 他者に対する気遣い、礼儀を重んじている	【性格】 穏やかで優しい。困っている人がいるとアドバイスをしたり手助けをする。しかし、他者からの強い口調には落ち込むことがある。	【価値観】 定年までの40年間、教員として勤め上げたことを何よりも誇りに思っている。「自分は教員だったから」と他人の悪口を言うことも聞くことも嫌う。		